



災害時に電気と水を確保する新)生活保全システムの販売

JFE エンジニアリング株式会社（本社：東京都千代田区、社長：岸本純幸）は、緊急時の電源・生活用水確保に対するニーズの高まりを受け、エンジン発電機＋燃料タンク＋貯水槽から構成する災害対応電源・水源システムの販売を開始しました。

本年3月11日に発生した東日本大震災により、庁舎、病院や学校、公民館などといった緊急時の「防災拠点・避難所施設」における電源や生活用水の確保が大きな課題となっています。高層化が進む一般ビル・マンション等においても、エレベータがストップし、給水も止まるなど電源・給水源への備えの重要性が浮き彫りになりました。

このシステムは、当社の独自技術である『空冷式二元燃料エンジン』※注1と『飲料水用耐震貯水槽』※注2を組み合わせて、商用化したものです。

停電が発生すると、瞬時にエンジン発電機が稼動し、まず消防設備など非常用設備へ給電を開始します。続いて給水ポンプを起動させ、貯水槽から飲料水を含む生活用水を供給します。また、冷暖房・通信など予め定めた設備に給電することにより、停電時に必要な建物の機能を維持します。

さらに、大規模施設等からのご要望があれば、通常時のメンテナンスや停電時の稼動を遠隔で制御するシステムも付与することも可能です。

このシステムには、都市ガスと軽油のどちらの燃料でも運転できるエンジンを採用しており、停電時でも都市ガスの供給があれば、蓄備している燃料の制約を受けることなく長期の継続運転が可能です。なお、このエンジンはピークカットを目的として、常用で運転することもできます。

また、貯水槽は、平常時に槽内を新鮮な水が循環する構造であるため、断水時にも飲料水として利用できる水が貯えられています。

当社は、これらの単体設備の豊富な実績を全国に有しています。震災以降のニーズの高まりを受け、これらをシステムとしてまとめ商用化したことで、庁舎、病院、学校や公民館などの防災拠点・避難所施設や大規模マンションやオフィスビルなどへのエンジニアリング提案を加速してまいります。

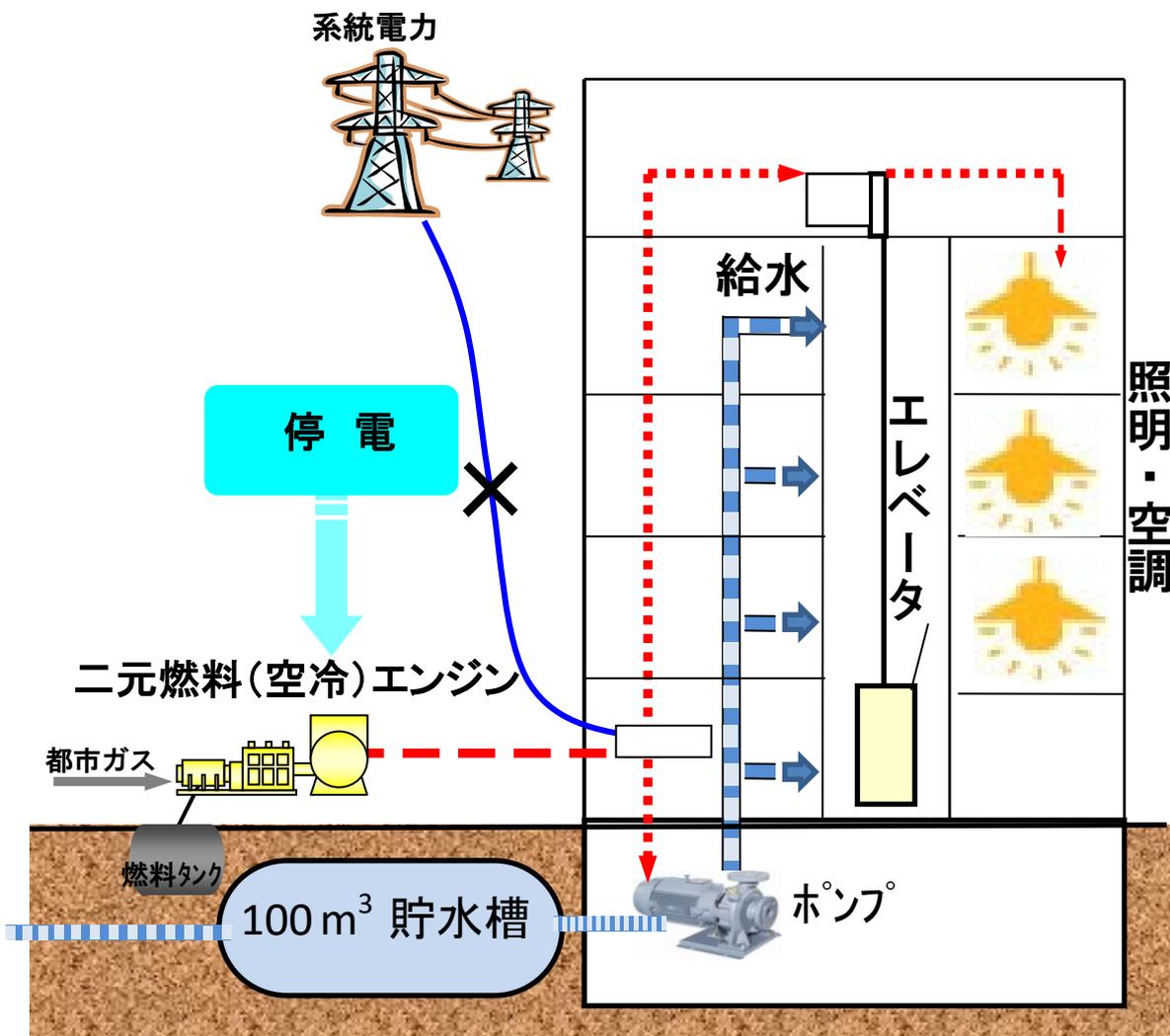
注1 空冷式二元燃料エンジン

空冷式二元燃料エンジンは、二元燃料(ガス・油の切替が可能)と空冷ラジエタ方式を特長としています。二元燃料のため、防災性に優れていることが評価され、防災拠点病院や羽田空港国際線ターミナル等、重要施設への納入実績があります。また空冷式のため、断水時にも運転可能であり、今回の震災直後も、仙台市内の公共施設内で、自動起動し、高い信頼性が証明されました。さらに契約電力量を低く抑えるためのピークカット運用にも適しています。

注2 飲料水用耐震貯水槽

飲料水用耐震貯水槽は、川崎市の学校施設をはじめとして全国に427ヶ所の実績があります。震度7までの耐震性と、水が常に循環する形式が特長です。今回の大震災では、仙台市水道局新庁舎に設置されていた貯水槽によって、水道が復旧するまでの数日間、仙台市民に飲料水を提供しました。

同システムのイメージ



本件に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

(商品に関するお問い合わせ)

JFE エンジニアリング株式会社 発電プラント事業部

(ニュースリリースに関するお問い合わせ)

JFE エンジニアリング株式会社 総務部広報室